

クリーンセンター七条地区移転 近隣5市町離脱で広域化を断念

計画そのものの正否問われる

奈良市が七条地区に移転して建設することを計画している新しいごみ焼却施設（新クリーンセンター）は、近隣5市町と共同で建設・運営する「広域化」を目指していましたが生駒、大和郡山と、相次ぐ離脱の上、最後の斑鳩町が離脱することを決めたため、広域化を断念せざるを得なくなりました。これにより、七条地区への建設計画そのものが「正しいか」問われています。

私の地元、都跡地区自治連合会は、七条地区へのクリーンセンターの移転建設について反対する嘆願書を市議会に提出、また都跡南部地域環境を守る会は市に対して移転建設を反対する要望書を出されています。私は地元のこれらの声を吸い上げ、検討委員会を通じて明確な反対を表明しています。市のクリーンセンターの移転の計画は、近隣に学校や病院などの



施設があることが反対の理由として、多くの議員からも指摘されています。しかし私はこれに加え、七条地区という場所を歴史的に紐解くことで反対の指摘をしています。

七条地区は、世界遺産・平城京の羅城門があったと推定されている場所で、奈良を訪問する人々を歓迎する場です。この場にクリーンセンターを建設することは、先人が守り今に残してきた平城京を核とする今後の奈良のまちづくりを阻害する可能性があります。今後も住民の皆様のご意見やご要望を行政に届け、周辺環境を守ると共に、歴史的観点やまちづくりの観点から指摘、提言を続けていきます。

安倍元総理事件事現場

「歴史的にもモニュメント必要」

市議会3月定例会で私は、所属する「自民党奈良市議会・結の会」を代表して代表質問に登壇し、安倍晋三元総理が銃弾に倒れた大和西大寺駅北口に今も多くの方々が慰霊に訪問している現状を取り上げ、モニュメントの設置や歩道の拡幅、現在工事中の道路のアスファルトの保存を求めました。

私は「事件の後、現場保存に関する市議会に限りならず全国からさまざまな声があつたが市長は『有識者に聞いた』として、議会に諮らず独断であり方を表明したのは乱暴で議会軽視だ。わが会派として承諾し難く残念」と指摘しました。

その上で、現場保存や慰霊碑設置を求める陳情書2件が出ていることを取り上げ「事件現場は歴史的にも忘れられることほなく、モニュメントは必要。市長が整備



するとしている花壇がその役割を果たせるとは思えない」とし「歩道を拡張し、現場を歩道に取り込むべき」だと、市の整備の再検討を強く求めました。

これからも地域と共に

地元要望の予算化

◀ 地元から要望があつた五条町にカーブミラーの設置を実現



▲ 陥没し通学路の危険個所だった五条町の歩道を予算化。木の伐採や整備を、実現しました



◀ 四条大路3丁目の通学路の歩道拡幅計画は、予算化を要望し、新年度から土地買収がスタートします



▲ 痛んでいた四条大路4丁目の新村池ガードレール補修を要望。整備費が新年度予算に盛り込まれました



地域での活動

3年ぶりの開催。地元イベントに参加



▲ 絵本読み聞かせ ▶



餅つき大会